

小樽商科大学の新たな挑戦

専門職大学院ビジネススクールがスタート



強力な推進力を 備えた大学に向けて

小樽商科大学長
秋山 義昭

本学は、本年の4月をもって、国の機関から国立大学法人小樽商科大学に移行しました。明治以来の大改革とも言われる歴史的な大学制度の変革です。ある程度の混乱もあり得るかと思ひびくびくしていましたが、周到な準備の甲斐あってか、思いのほか淡々とこの日を迎えることができました。

ところで、法人化は、運営が各大学の責任と判断に委ねられることを意味します。今までは、国の出先機関のようなものでしたが、これからは、各大学が創意工夫を凝らし、競い合って教育や研究の充実を図らねばなりません。さらに、今後は18歳人口の著しい減少が予想されますので、国立、公立、私立の大学を巻き込んだ受験生獲得競争も一段と激化するものと思われます。

本学は、地方の文系小規模国立大学ということで、こういった競争的な環境の中では、大変厳しい状況下に置かれるものと言えましょう。

しかし、私どもは、法人化を大学活性のための一つの契機として捉え、むしろ本学発展に向けた強力な推進力を備えることで、さらなる飛躍をするためのチャンス到来と受け止めています。

本学が備えるべき「推進力」とはなんのでしょうか。

言うまでもなく、小樽商科大学ならではの特色を強く打ち出し、他大学との差別化を図ることが、まず何よりも必要と

考えています。地方の小規模大学であれば、なおさらのこと個性を発揮し、社会的にも確固たる評価を得て、その存在を知ってもらわなければなりません。

本学は商科系の単科大学で、もともとが個性的な大学です。建学以来、実務教育を重視する一方、世界的に通用する視野の広い倫理観を備えた人材の育成を目標に、言語教育や教養教育にも力を注いできました。小規模なるが故に、教職員と学生は、教育や学生生活を通じて密接な人間的触れ合いを図ってまいりました。

近年は、産学連携や地域貢献にも積極的に取り組んでいます。実務教育や社会人教育の伝統、経験を活かして、北海道の産業構造の転換を担うビジネスリーダーを育成することで地域社会の活性化の貢献をしようと、法人化に合わせ、東京以北初めての本格的な専門職大学院、いわゆるビジネススクールもスタートさせました。

法人化を機に、本学では全教職員、学生が一丸となって、個性豊かな魅力溢れる大学造りに向け決意を新たにしているところです。

本学は、規模的には波間に漂う小舟にすぎないかも知れませんが、強力なエンジンを武器に、荒波をものともせず突き進んでまいりたいと思いますので、地域の皆さんにもぜひ応援をよろしくお願いする次第です。